



「天竜びと」が感じる春

春はこうして天竜川にやってくる

天竜川の春・待・人

長かった冬に別れを告げて、もう春。日差しも少しずつやわらいできましたが、皆さんはどんなときに春を感じますか？
今回は春を待つ「天竜びと」が感じる春とは何か、をご紹介します。



1週間違うだけでも大違い、 急激に変化する春の自然を見逃さないで

●飯田市美術館学芸員 四方圭一郎さん（飯田市在住）

春の自然、その魅力は驚くほどの速さで変化するとあります。特に天竜川沿いで段丘地形が見られる場所は、林相によってまったく違う表情を見せるので、さらに興味深く、毎日見逃せません。農家の人は、「生きものがかく」と表現しますが、生きものだって春は活発。でも、私はむしろ風や空気にまず春を感じますね。「この気候なら、あの虫が見られる」というふうには

じっくり観察してみてください。たとえば、チョウの中には成虫で越冬するものもいます。成虫で越冬する場合、翅の裏側は茶色で枯葉か樹の皮のようになった種類もいます。冬越ししたチョウは翅が古びた感じがしますよ。それからチョウは日光浴もするんですよ。春のチョウは特に日光浴が好きですね。

また、天竜川流域は標高が高い所と低い所にいる蝶が一緒に見られる全国でも有数の場所。珍しい種類もいますから、私のような「蝶好き」にはたまらない場所です。



成虫で冬越しするヒオドンシヨウ

天竜川流域には、ヒオドンシヨウやヒメシロシヨウなど、冬越しするチョウが観察できます。



四方さんと共に昆虫だけでなく鳥や植物からも春を感じた子供たち。昨年4月に訪れたかからんべで「春の虫を探ろうよ」のひとこと。



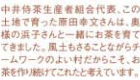
四方さんによると、ヒメシロシヨウは、チョウのなかでも、日光浴が好きで、日光浴をするときに、翅を伸ばして日光浴をするそうです。



「銘茶の里」

春の茶畑は、 人と新芽であふれています

●中井侍茶生産者組合代表 原田幸文さん・浜子さん（天龍村在住）



中井侍茶生産者組合代表、この土地で育った原田幸文さんは、奥様の浜子さんと一緒にお茶を育ててきました。風土もさることながら、チームワークのよい村だからこそ、お茶を作り続けてこれたと誇っています。

組合ができた昭和45年ごろから本格的にお茶を作り出しました。長野県の中では暖かく、天竜川から上ってくる朝霧と、雨量も適度にあつて水はけのいい傾斜、すべてが栽培にぴったりの土地です。

この里でとれるお茶は、やわらかくて甘みがあつて、香りもいいんです。収穫は5月10日ごろで、冬場は作業がないからひたすら春を待つ。茶の芽が5、6枚ほど出てきたら収穫の合図で、それを見とれしく。

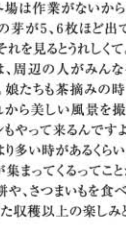
茶摘みの時は、周辺の人がみんな手伝いに来てくれます。娘たちも茶摘みの時には帰ってくるし、それから美しい風景を撮影しに大勢のカメラマンもやって来るといいます。作業している人の数より多い時があるくらい。

天龍村に人が集まってくるのが春の知らせ。かしお餅や、さつまいもを食べながら作業するのも、また収穫以上の楽しさといえますね。

ひやっとするくらい急な気温に茶畑は慣れます。この時期が、お茶の甘みを生かす時期なんです。



原田さんは、眼下に広がる天竜川を眺めながら話してくれました。お茶の芽が広がります。



収穫期の風景。緑色の新芽が目を鮮やかです。撮影：羽野博一



木の芽が赤みがかったら春 高遠の桜を楽しんで

●桜守 宇治田直弘さん 西村一樹さん（高遠町在住）



桜守の仕事は真夏に左右されます。ちょうど桜が咲いた日は予定中でした。

昨年4月から桜守の仕事に就きました。桜守になるには試験があります。無事合格したんですが、なんと高遠町には僕たちを含めて桜守が3人しかいないんです。だから町中の桜のことがわかるようになりました。今ではある意味、職業病みたいになっちゃって、休みの日も桜を見に行ったりしています。

花見シーズンになると、お花見客の対応で追われます。桜のことを知りつくした桜守のガイド役ですから、桜のことは何でも聞いてください！GWが開けて高遠城址公園の「さくら祭り」が終わると、桜に栄養補給をします。夏は虫退治、そして1年を通して予定作業があ

りますが、秋は格別です。何しろ中央アルプスを眺めながら作業ができるのですから。冬は枝に積もった雪を取り除くといった仕事が多くなりますね。

冬の間は木々が黒くまっ暗ですが、2月末ごろになると木の芽が赤く色づいてくるんです。そうすると「春がきたなあ」と感じます。

春を楽しむに、高遠の桜を見にぜひいらしてください。できれば、足元の春もぜひ感じて欲しいですね！福寿草などの山野草もたくさん咲いてますから。

*高遠町は3月31日に合併して「伊那市」となります。



宇治田直弘さん（左）は28歳、西村一樹さん（右）は23歳という若い二人が、高遠の桜を守っています。



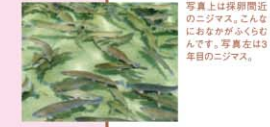
写真上が高遠町のしだれ桜。遠くへタイムスリップしたような思いを掻き立てられます。写真下は高遠城址公園の桜。見事な美しさです。



「溪流魚の春」

おながが柔らかくふっくらした ニジマスが増えてきたら 春なんです

●天竜川漁業協同組合養殖事業所 伊藤真範さん（伊那市在住）



写真上は採卵開始のニジマス。こんなにおなががふっくらするのは、春です。写真下は3年目のニジマス。

この宮田村にある養殖事業所にはニジマス、イワナなどがいて、ちょうど今、ニジマスが採卵を控えています。ニジマスの採卵のピークは3月と1月ですが、1年中の卵が出荷されて、日本全国にいます。日本で1、2位を争うほどのシェアなんです。

おながきまでうちの魚は評判がいいんです。木曾駒ヶ岳からの湧水と黒川の冷たい水が、魚たちの身を引き締めてくれるから。他所と違って水温が低いので、稚魚から成魚になるまで19ヵ月間、自分の子供のように愛情込めて育てています。冬の間は冷たくて凍えちゃうけど、魚たちがかわいから苦になりませんね。

3月に入って水温が4度ほどになったけど、春を感じるにはニジマスのメスのおながが柔らかくなってふくらんできたときですね。オスは色が濃くなって、顔もこわくなる。結婚色っていんですけど、結婚前で男らしくなるってことかな。そしてイワナとアサギ、ジャンボマスは上伊那の渓流に放流に行きます。わが子が果立っていくみたいで寂しくなると、これが終わると、ホントに春だあって思います。



養殖事業所所長の伊藤さんは、大の魚好き。春は採卵を終えて帰った魚を釣ろうかと夕暮、イシナジなどの餌いぶたか、魚への愛情も命がけです。



知ってナットク なるほど！天竜川

「砂防堰堤」って何？

山に出かけたときなどに、水ではなく土砂が溜まったダム（堰堤）を見たことはありませんか？ 実はこれが砂防堰堤なんです。一般的にダムといえば、水を貯めたり、発電を行うためのものをイメージされるかと思いますが、砂防堰堤の役目は違うんです。

大雨などにより土石流が発生した場合、砂防堰堤がないと一気に下流に流れ出し、人々の生活に被害をおよぼします。この土石流を受け止め、被害を防ぐのが砂防堰堤の役割です。大量の土石流が発生した場合に備えて、いくつかの堰堤を連続して設置してある河川もあります。

また、近年では自然に配慮して、水や魚が自由に通ることのできるオープンタイプの砂防堰堤も建設されています。地形地質特性のため土石流が発生しやすい伊那谷において、砂防堰堤は皆さんの暮らしを守る重要な役割を果たしているのです。

オープンタイプの大滝砂防堰堤（飯田市上村）

美しい石積の上蔵砂防堰堤（大鹿村）

土石流

飯島第5砂防堰堤（飯島町）